

1. 短期展望 (p. 1)

- ① [アメリカ景気回復の兆し] 2004年に向けアメリカ経済は順調に回復。企業業績、株価は良化するが、失業率の劇的改善は難しい。
- ② [イラクは国連参加で秩序確立へ] イラクでの抵抗が続くが、国連の枠組みの中でフランス、インドなども平和維持部隊に参加し、秩序回復へ。
- ③ [米・北朝鮮関係の長期的見通し] 北朝鮮問題にソフトランディングはなく、金正日には遅かれ早かれ、死だけが待っている。

2. 展望①アメリカ経済に回復の兆候 (p. 4)

- (1) [上向く設備投資] 米企業の設備投資に本当の底入れの兆し。
- (2) [エコノミスト予測] 今年の米GDP成長率2.3%、2004年は3.7%へ。
- (3) [欧米通信企業大手の業績底入れ] エリクソン、ルーセントなど業績急回復。
- (4) [米耐久財受注額2ヶ月連続増] 6月の米耐久財受注額は前月比2.1%増。
- (5) [米企業の手元資金急増] 企業純現金収支黒字が年率換算2,400億ドルに。
- (6) [不安材料：住宅公社疑惑] 米連邦住宅公社に粉飾決算疑惑。景気回復への不安要因となるか。

3. 展望②国内情勢 (p. 8)

民主党と自由党合併劇の背後に小沢・ロックフェラー関係が。世界統一政府構想を巡る欧米エスタブリッシュメントと米キリスト教・シオニスト・ユダヤ連合軍の激突に翻弄される日本政界と皇室。

4. 展望③ロシア石油大手ユコス社攻撃の背景 (p. 13)

プーチン大統領側近ペテルブルグ派旧KGBが世界4位の石油大手ユコス社社長でユダヤ系のホドルコフスキーを攻撃。ホドルコフスキーの政治的野心に掣肘を加えるのが目的だが、背景に英ロスチャイルドの影もちらつき、中東情勢とも絡み、プーチン大統領が反ユダヤキャンペーンに巻き込まれる可能性も否定できない。